

R4-R8の有田地域等の減災に係る 取組方針(第2期)の取組事例

取組内容

(1)洪水に対する意識の啓発及び普及 ①情報伝達、避難計画等に関する事項

■想定される浸水リスクの周知について

・洪水予報・水位周知河川以外の想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図の公表

更新あり

和歌山県

●中小河川の洪水浸水想定区域図の作成・公表

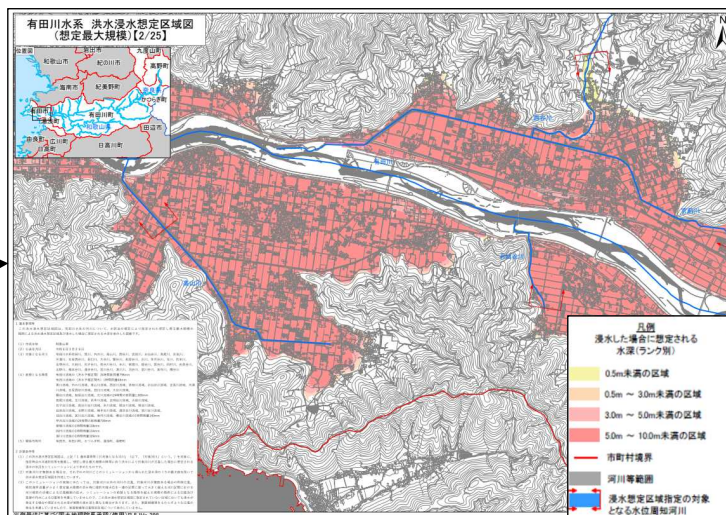
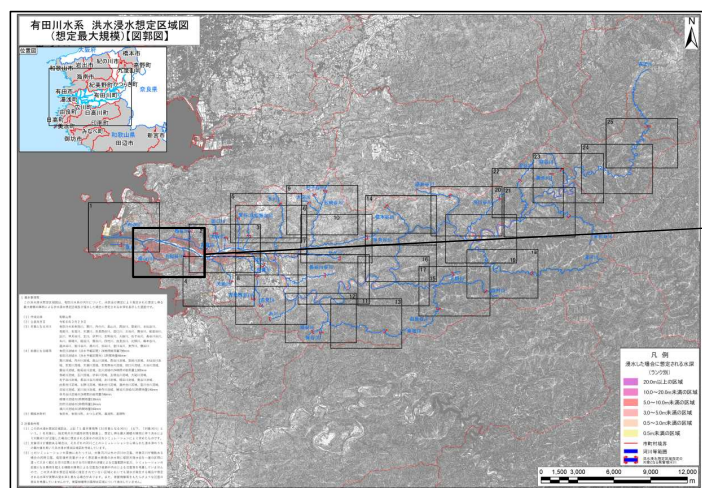
取組概要

○これまでは県管理河川の洪水予報河川及び水位周知河川区間において想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図を作成し、公表していた。

○令和3年7月の水防法改正を受け、上記区間を除く県管理河川の水害リスク情報についても明らかにし、住民の適切な避難行動を確保することを目的とし、和歌山県では県管理449河川(※)において想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図を作成し、公表した。(令和6年3月29日)

※県管理450河川のうち1河川(ぶつぶつ川)は住宅等の防護対象のない河川であり公表対象外

想定最大規模の洪水浸水想定区域図(参考:有田川水系)

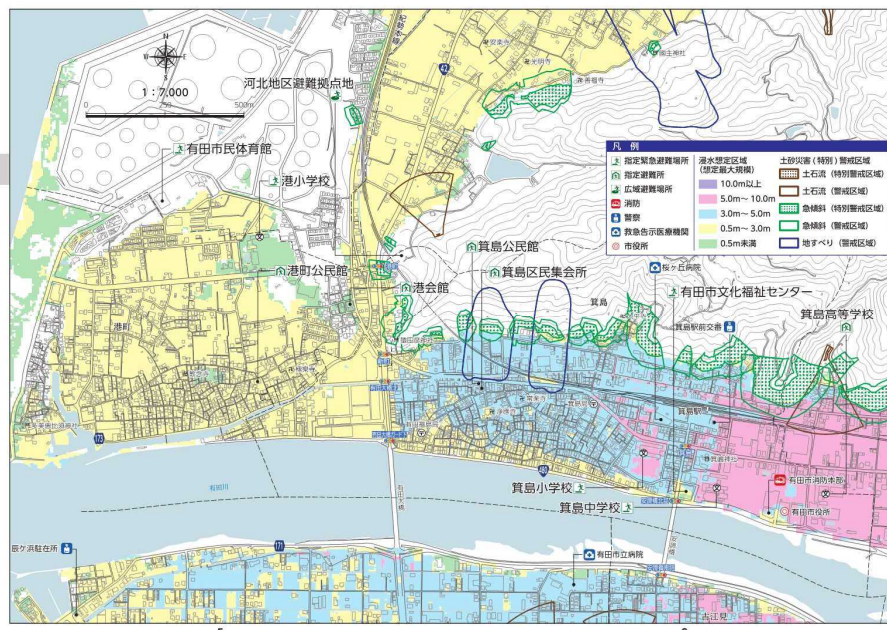


●県ホームページで、河川の水位、カメラ映像を提供

2

●ハザードマップの整備

- 有田市では、令和４年３月に土砂災害と有田川の想定最大規模降雨に対応したハザードマップを作成・配布。
- 市民の避難行動の一助となるように、マイ・タイムラインを記入できる欄を作成、防災講座時に使用している。

[illegible]

● 森林環境譲与税を活用した水源のかん養

取組概要

○かつらぎ町の森林・林業の現状と課題

かつらぎ町の総面積15,169haの約65%占める山林は、すべてが民有林で、うち人工林79%、天然林20%となっている。またこれらの山林は、林産物の供給のみならず、国土の保全、渇水や洪水の緩和、良質な水を育む水源のかん養機能、土砂災害の防止等、重要な役割を果たしている。

しかし、近年、森林所有者の高齢化・不在村化、また後継者不足や林業の採算性の悪化等により、林業生産活動が全般的に停滞し、間伐、保育等が適正に実施されず、人工林の荒廃が多くみられるようになっており、森林に対する適切な間伐、保育等による森林整備が重要な課題となっている。

これらの状況下で平成31年4月に森林経営管理法が施行され、「森林経営管理制度」がはじまった。また、喫緊の課題である森林整備等に早期に対応する観点から「森林経営管理制度」の導入に合わせて、森林環境譲与税の譲与がはじまった。

かつらぎ町においても、森林環境譲与税を活用して、事業者（かつらぎ町森林組合）が実施する間伐や作業道の復旧事業に対して支援している。

○花園地域の意向調査令和6年度以降計画（案）

意向調査の実施場所については、「統計的に国民が森林に期待する機能の第1位は防災である」ことから、和歌山県の土砂災害マップを活用して、危険度が高い地域を優先的に実施していく。

令和6年度 花園梁瀬（南側）

令和7年度 花園北寺（下北寺）、池ノ窪

令和8年度 花園北寺（下北寺）、池ノ窪

令和9年度 花園新子

事業年度	実施場所	実施実績	施業内容
令和4年度	花園梁瀬	1.85 ha	間伐
	花園梁瀬	1.50 ha	間伐
	花園梁瀬	0.50 ha	間伐
	花園梁瀬	4.54 ha	間伐
	花園梁瀬	2.57 ha	間伐
	花園梁瀬	2.49 ha	間伐
	花園梁瀬	3.43 ha	間伐
	花園北寺	1.10 ha	間伐
	花園久木	7.00 ha	間伐
	花園中南	23.17 ha	間伐
	花園梁瀬	11.76 ha	間伐
	花園梁瀬	17.50 ha	間伐
	令和3年度	花園北寺	2.83 ha
花園梁瀬		2.86 ha	間伐
令和2年度	花園梁瀬	13.78ha	間伐
	花園梁瀬	1,736m	作業道設置
	花園北寺	6.15ha	間伐
	花園梁瀬	13.03ha	間伐
	花園梁瀬	714m	作業道設置
	花園北寺	7.03ha	間伐
	花園梁瀬	2.3ha	間伐
	花園久木	18.99ha	間伐
	花園中南	21.92ha	間伐
	花園新子	19.61ha	間伐

取組内容

(4)『流域治水プロジェクト』の実施 ⑤河川管理施設等の整備に関する事項

■流出抑制・内水対策について
・間伐等による森林整備

● 日本農業遺産に登録された森林環境の保全による治水・治山の推進について

高野町

取組概要

高野町、かつらぎ町、有田川町が協働し提案した「聖地高野山と有田川上流域を結ぶ持続的農林業システム」が令和3年2月に日本農業遺産に登録された

この中で総本山金剛峯寺が取り組んでいる

- ①長々伐期施業
- ②複層林化
- ③天然下種更新

の考え方は、「水源の涵養」や「国土保全」に非常に有効なものであり、1200年の歴史を経た知恵であると考えられる。

今後も引き続きこれらの施業を行って行くことで、有田川上流域の「減災」に繋げて行きたい

【課題】

河川近くの森林の木材が下流に流出しないよう、「切り捨て間伐」ではなく「搬出間伐」を推奨、今後、森林環境譲与税などを活用した事業者への補助制度の確立が必要

枝打ちや間伐が適切に施され、複層林化し、豊かな生態系とともに、保水力の高い森林が広がる高野山奥之院裏 →



・町内小学校などを対象にした防災教育の実施

取組概要



△防災用資機材を用いた避難所宿泊体験、防災知識の講習等を通じて防災意識の向上を図った。

- (1)洪水に対する意識の啓発及び普及①情報伝達、避難計画等に関する事項
■防災に関する啓発活動について
(2)避難時間の確保③水防に関する事項
■水防体制について
(3)迅速・的確な行動の備え①情報伝達、避難計画等に関する事項
■避難誘導体制について

- 小中学校と連携した防災教育の実施
- 土のうステーション整備
- 自主防災組織代表者を対象とした個別避難計画作成にかかる町外視察研修実施

小中学校と連携した防災教育の実施



町内の小中学校と連携し、避難所見学や図上訓練等を実施し、防災意識の向上を図る。

土のうステーション整備

令和5年6月2日の豪雨災害を受け、町内22地区に土のうステーションを整備中。

自主防災組織を中心に、地域住民が自発的に水防活動を行うことができる体制の構築を図る。

自主防災組織代表者を対象とした個別避難計画作成にかかる町外視察研修実施



町内自主防災組織代表者を対象とした個別避難計画作成にかかる町外視察研修を実施。

令和4年度内閣府事業の避難行動要支援者に係る個別避難計画の作成の推進において、モデル事業の対象となった枚方市の担当者から、計画作成と自主防災組織との関わりについて話を伺った。

取組内容

- ②水防に関する事項
◆水防資機材の整備
◆住民等への情報伝達体制や方法について **更新あり**

- 土のうステーション整備 ●防災ポータルアプリの周知

水防資機材の整備（土のうステーション整備）

令和6年度より土のうステーション整備を実施。
令和5年6月浸水地域などを中心に要望のあった
地区に設置を行う。各個人や地区、自主防災組織
など自助・共助の部分において活用できるものとな
り、防災意識向上につながることを期待できる。

【今年度取組】

地区へ設置の有無、設置希望箇所を調査した結果、
45地区からの要望あり。



※写真はイメージです。

【整備目標】
1年20基ずつ×5年間
計100基

防災ポータルアプリの周知

アプリ「**ありがたがわ防災・行政ナビ**」
～みんなの手元に“防災”を～

令和3年4月より有田川町公式の
スマートフォンアプリを導入。
防災行政無線放送内容受信、水位計、
河川監視カメラ情報の提供など防災関係
だけでなく広報誌など町の情報も掲載。

【今年度取組】

- 周知活動
- ・役場吉備庁舎1階に周知ブース設置
 - ・教育委員会を通じ、各小中学校保護者にチラシ配布
 - ・自主防災組織など防災研修会実施時に周知および登録補助実施
- 庁内に積極的な情報配信を依頼



【登録者推移】

